

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101041
法人名	医療法人 群栄会
事業所名	グループホーム みずきの家
所在地	群馬県前橋市池端町384番地の1 (電話) 027-253-5630

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5
訪問調査日	平成 21年 4月 23日

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 専任12兼務3人, 非常勤 2人, 常勤換算 6

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建て
------	---------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1500円				

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人群栄会 田中病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体が病院であるため、緊急時の対応がスムーズに行われるので、利用者・家族は安心感を持って生活している。利用者の生活歴や経験を大切に考え、こんにやく作りや蚕の飼育等を日々の生活の場に取り入れて、利用者一人ひとりが生甲斐のある生活が送れるよう取り組んでいる。多くの社会経験を経た職員が多く、その対応はきめ細かく、利用者・家族・来訪者等に対しての心配りが行き届いている。地域の行事等には積極的に参加して、地域の中で生活することの大切さを意識しながらの取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった地域密着型サービスとしての理念については、これまでの理念を見直し地域との関連性を謳った新たな理念を作成した。又現状に即した介護計画の作成についても全職員で話し合い改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は評価用紙を職員に渡し、各自がそれぞれ記入、それに基づき話し合っ管理者がまとめたものである</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催しており、ホームからは利用者の近況・行事・外部評価等の結果の報告をしている。会員からは災害対策についての助言や地域の行事の情報(夏祭りや枝豆収穫祭等)を得ており、利用者がそれらの行事に参加するようになった。会員からホームのクリスマス会に参加したいとの要望があり、これを実現し共に楽しいひと時を過ごす等実践に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の意見や苦情は管理者や職員に気軽に話せるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。家族参加の行事の時には参加者同士や職員との意見交換が活発に出来るような雰囲気作りをし、会話の中から意向等を汲み取る様になっている。家族等の意見は掲示板でお知らせしている。「夜勤は1人じゃ大変だね、2人いるといいね」等の意見も聞かれた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、回覧板や集金に地域の方が訪れて利用者と言葉を交わしたり、利用者が地域の行事(夏祭り・敬老会・枝豆収穫祭等)に参加して地元の人達との交流の機会を作っている。地域にある各種事業所代表者の歓送迎会等に管理者が出席、ホームの啓蒙と地域の住民として認知されるよう努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、これまでの事業所独自の理念を見直し、地域との関わりを盛り込んだ新たな理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り等関わりの振り返りの時に、理念に触れ、確認しながら日々の対応に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板や集金に地域の方が訪れて利用者と言葉を交わしたり、反対に利用者が地域の行事(夏祭り・敬老会・枝豆収穫祭等)や古紙回収に参加する等地元の人々と触れ合う機会を作っている。地域にある各種事業所代表者の歓送迎会に管理者が出席、ホームの啓蒙と地域の住民として認知されるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と職員が話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。前回の評価結果は運営推進会議や施設会議等で報告すると共に、ミーティング等で意見交換を行い、全ての項目に対して改善に取り組み実践に繋いでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ホームからは利用者の近況・行事・外部評価等の結果を報告している。メンバーからは災害対策についての助言や地域の行事の情報(夏祭りや枝豆収穫祭等)を得ており、利用者がそれらの行事に参加するようになった。又、メンバーからのホームのクリスマス会に参加したいとの要望により、これを実現し共に楽しい一時を過ごした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の勉強会に参加したり、運営推進会議の連絡・報告・相談事で担当者を訪ねて情報交換をしサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎にホーム便りを発行したり、家族等の来訪時や電話等で利用者の身体状況や生活の様子等を報告している。預かり金については出納帳を確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情は管理者や職員に気軽に話せるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。家族参加の行事の時に参加者同士や職員との意見交換が活発に出来るよう雰囲気作りをし、会話の中から意向等を汲み取る様になっている。家族等の意見については掲示板でお知らせしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしている。夜勤が2フロア1人体制の為、必要に応じてユニット間の職員の異動は行われる。職員の異動は「お便り」で報告すると共にホールに掲示している。職員は名札をつけ出来るだけ早く馴染んでもらえるよう配慮している。新入職員に対しては日勤で1ヶ月以上、その後夜勤を1回以上をマンツーマンで指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(薬や病気等について)や外部研修(認知症介護基礎研修・実践者研修・実践リーダー研修など)には多くの職員が参加出来るような体制をとっている。研修会参加後は報告書を作成し、全職員に周知出来るよう発表の場を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、連協主催の研修会や市内グループホームの勉強会等に参加し、事業所同士の情報交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してもらい、納得しての利用をお願いしているが家族だけの見学もある。関連施設の老健や病院からの入居の場合は本人・家族共に、ある程度ホームの様子を知ってから入居のため比較的馴染み易い。新入居者に対してはしっかりと向き合い話を聞いて、不安を除くよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に支えあって生活をしていくという考えで常に接しており、蚕の飼い方・こんにゃくの作り方・昔の行事・諺・戦争の話等を教えてもらったり、「大変だね」とのいたわりの言葉をかけられる等、本人から学んだり、支え合う関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやコミュニケーションの中での言葉や態度から希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方については表情や顔付等から思いを察する努力をすると共に家族から情報を聞いている。気付きのある場合は申し送り時に報告したり、重要なことはメモに残して伝え、全職員が情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向・家族の要望・スタッフの気付きや情報等に基づき、職員会議で話し合い、それらの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回モニタリングを行い、状態に変化が生じた場合は介護計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて緊急時の往診の依頼や点滴の見守り、他病院への通院支援、買物同行等柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況及び家族等の希望により受診している。受診介護についてはかかりつけ医と話し合いをしたり、指示を受けて適切な対応が出来るよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に事業所としての基本的な方針を明記している。重度化の場合の対応について家族の気持を確認、内諾書を作成している。状況の変化に応じて、家族の思いを確認しながら医師・看護師・職員等で話し合い支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で誘導時の声かけや対応等に配慮している。又、ミーティングや申し送り等の場で、折にふれてプライバシーの確保の徹底について話し合い意識向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや状態に配慮しながら、起床・就寝・食事の時間等一人ひとりのペースに合わせた対応をしている。その時の気分で一人で散歩に出かける方もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、片付け等、その方の出来ることをしてもらうよう配慮している。畑の野菜と一緒に調理し食卓をにぎやかす事もあり食事を楽しめる工夫をしている。行事や昼食会には利用者の好みを取り入れた献立により職員全員が共に食卓を囲むが、通常は職員1人だけが利用者と食事をしている。	○	食事をより楽しいものにするために、食事一連の作業を利用者と職員が共に行い、利用者と全職員が同じテーブルを囲み、同じ食事を一緒に味わいながら食べることを検討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援	職員の勤務体制や行事等により左右されることもあるが、概ね利用者の希望に応じての入浴を支援している。気の合う利用者同士での入浴や入浴剤を使用する等、入浴を楽しめるよう工夫している。入浴拒否の方に対しても対応の工夫で週に1回の入浴に取り組んでいる他、シャワー浴や清拭で対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴・能力・得意分野等を活かして自室のトイレ掃除・ゴミ捨て・洗い物・お盆拭き・洗濯物たたみ等を役割としての支援やおやつ作り・散歩・ドライブ等の楽しみ事や気晴らしの支援をし、張り合いのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に合わせて、出来るだけ散歩・ドライブ・花見・リンゴ狩りなどに出かけ心身の活性に繋がるような支援をしている。屋外設置のベンチでの外気浴により気分転換を図ることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており日中、玄関に鍵は掛けていない。見守りや利用者が外出しそうな様子を察知したら一緒に散歩に出る等の対応で、利用者は落ち着いた日々を送っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練のマニュアルが作成されており、母体の病院と共同で年に2回、昼夜を想定して避難誘導等を行っている。運営推進会議で自治会長や民生委員等に災害時の協力をお願いしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には母体病院の栄養士の献立による食事を提供しているが、食事制限のある人、偏食の人等にはその人に応じた対応をしている。食事や水分の摂取量については毎食チェックして記録に残し、健康管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節を感じさせる飾り付け・季節の草花・観葉植物・ちぎり絵・利用者の作品等を飾り、台所からは食事の準備の音や香りが届き、季節感や生活感を感じさせる工夫が見られる。畳のスペースには掘りごたつがあつて、落ち着ける場所が用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの寝具・衣装かけ・時計・手作りの作品等を飾る等、居心地良く過ごせる工夫がされている。又花を飾ったり、ラジオや音楽を聴きながら一人の時間を楽しむ人もいる等、一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた対応をしている。		